

ひめじ市民法律事務所

市民法律だより



明けましておめでとうございます

1年がまるまる「平成」である最後の年の幕開けです。
そうとうと何となく所在が無いので、今年はここから。

「ここ」

どっかに行こうと私が言う
どこ行こうかとあなたが言う
ここもいいなと私が言う
ここでもいいねとあなたが言う
言ってるうちに日が暮れて
ここがどこかになっていく (谷川俊太郎 2000年)

いいですね。

庭の落ち葉を掃いていると、棄てるのがもったいなく感じる時があります。色づいて、散らばって、濡れて、乾いて、巻いてくる。隅に掃き込むとふわふわして、いい感じです。

私たちの仕事は、なんというか、「ここがどこかになっていく」ようなものになるよう、気取らず、できたらそっと、でも内心大まじめに、みんなで縫い上げていく、下支えするというようなところがあるんですよ。社会の大きな仕組みが時計仕掛けのようなものにならないよう、ましてや爆弾のようなものを抱え込まないよう、できる限り痛みを満ちたものにならないよう、醒めたまま、そっとそっと扱っていく仕事。

「平成」の代が変わっても、強きをくじき弱きをくるむ。被害者や被災者や孤児や病者の処に身を致して心を温め続けようとしてきた人の祈りを、わが祈りとし、そのおおもとなる平和憲法の灯を点し続ける人垣は続きます。

新しい年にあたり、皆様のご健康とご多幸を祈念して、新年のご挨拶と致します

2018年(平成30年)元旦 所員一同

発行責任者

〒670-0952 姫路市南条10-4

ひめじ市民法律事務所

所長 弁護士 平田 元 秀

弁護士 吉 谷 健 一

電話 079-282-0430

FAX 079-282-0433

<http://himejishimin.com/>

事務所営業時間

月～金 午前9時30分

～午後6時

土曜日 午前中 予約相談あり

コンテンツ

年始のご挨拶	1
弁護士の小話	2
弁護士のよもやま話	3
エッセイ	4
事務所員アンケート	5
事務所旅行	5
行ってきたよこんなお店	6
編集後記	6

「ぼんやりとした無力感」から「覚醒した年寄り国家」へ

弁護士 平田元秀

「ぼんやりとした無力感」。毎日新聞11月28日付「時論フォーラム」で森健氏は総選挙後の国の空気をそう述べた。理不尽なことが、追及を免れてまかり通る。値下げ根拠不十分の「会計検査院報告」、地中ゴミなしの「音声データ」が突きつけられても、頷きながらスルーできる政治力。小選挙区制の制度的問題点と、首相解散権を利用する現政権の仕掛けの巧みさが大きい。その力を安倍政権に与えたのは、その下での私たち国民の力量である。政治は動かせるはずなのに動かさないと、難しくそこにとどまる。これはどうしたことだろう。もう破綻していて、一から見直さなければならぬ政策がある。原発政策も、そして私の身近なところでいえば法科大学院制度も、既得の省・機関や利害関係者がハンドルを握って手放さない。というか、その手から私たちがハンドルを奪わない。

この国の新しい担い手が、「湧き上がらない」。南米ウルグアイのムヒカ前大統領のように、魂を揺さぶるように政治の意味を伝える「民衆の政治家」が、出てこない。世界は必ずしもそうじゃないから、この日本の現状を見て、ゆっくり静かに進む「少子高齢化」「人口減少社会」の現実を思わずにいられない。

2016年の出生数は、始めて100万人を割り込み、出生率は1.44にまで下がった。2015年の国勢調査で、日本の人口は、統計を取り始めて初めて減少に転じた。今は、1億2,700万人だが、35年後の2053年には、9,900万人になる。そして、50年後の2065年には8,800万人にまで減少する(国立社会保障・人口問題研究所報告)。婚姻件数・婚姻率も減り続けている。

そしてやはり高齢化。2年後の2020年には女性の2人に1人は50歳以上となる。既に、4人に1人が65歳以上の高齢者となっている。高齢者の1人暮らしもますます増えてくる。2025年には、団塊の世代の全てが75歳以上になる。今から僅か7年後の2025年には、社会保障費の財源不足が顕在化する(基礎年金

の原資が不足する)。この辺りから社会保障の切り下げ(生活保護制度を含む)の痛みと増税の痛みの危機がリアルとなるはずである。私たちの「ぼんやりとした無力感」、私たちが2世、3世議員や既得の省庁政策から「ハンドルを奪わない無力感」が、その当たりから来ているとしたら、より事態は深刻である。道路、上下水道、河川港湾設備、公共施設、などの社会インフラは、利用料、税収で維持されているが、少子高齢化で利用が減少し、人口減少で税収が減ると、インフラを更新できなくなる。2033年には空き家率は3割にまで上昇する。空き家の活用対策どころか、老朽化した空き道路、空き水道、空き公共施設、耕作放棄地、放棄山林が国中に広がる。そうして、18年後、2036年には、3人に1人が65歳以上となる。私もその1人だ。これらは既に到来し、これから間違いなくやってくるこの国の現実である。

「憲法を改正して、自衛隊を憲法に書き込む！」なんて言うが、若者を戦争に取られる余裕などどこにもない。政府は「外国人受け入れ+AIフル活用」で少子高齢化に対応するつもりのようなのであるが、公務員である自衛隊を外国人部隊にする訳にはいかない。そして、公務員を雇う税収もない。税収58兆円の国が、34兆円の借金(国債発行)をして、国を借金経営している現状である。今、若い人を戦争に取られてもしたらこの国の民は再生できなくなる。日本が若い国に伍して戦争も出来る国になるというのは冷や水にもほどがある。武力で威嚇する国や人たちに対し「つまらないから止めろ」という、「覚醒した年寄り国家」になるしかない。2015年からの3年間で、資産が1億円以上となる富裕世帯は、100万世帯から120万世帯に急増し、その分資産格差は拡大した。この国の金持ちはほっといたら財テクばかりするというのが現実なら、情けない限りだ。

もうちょっと本気で考えよう。この日本社会の動かし方。

「NO MUSIC NO LIFE」

弁護士 吉谷 健 一

のっけから、どこかのCD販売店のキャッチフレーズみたいな出だしになってしまいました。

この便りが届くころには、既に紅白歌合戦も終わっていることかと思いますが、この原稿を書く段階では、ちょうど出場歌手が発表されたところです。

しかし、最近の音楽には全く疎くなってしまったため、出場歌手のラインアップを見てもピンと来ないことが増えてきました。

もっとも、最近の歌手について毒を吐くのが本稿の目的ではなく、では最近どのような音楽を聴いているのかというのが本題です。

最近聴いているというだけで、必ずしも最近の曲という訳ではありませんので、悪しからずご了承ください。

1 『花 火』 (aiko/1999年)

季節外れの曲ですが、aikoは全般的に好きなので、その中から今お気に入りの曲を選びました。

リリース当時、私は大学生で、この曲が大ヒットしたことによって、私も世間のご多分に漏れずaikoの存在を知ったのでした。

専門的なことは分かりませんが、スタイルを確立した今とは少し違う独特の、ジャズにも似た自由な曲調がいい感じですよ。興味のある方は、ピアノパートに注目して聴いてみてください。

歌詞を見ても、「夏の星座にぶらさがって上から花火を見下ろして」などという発想は、なかなか出てこないと思うのですが、妙にピタッとはまるのが不思議です。

2 『Driving Home for Christmas』

(Chris Rea/1986年)

クリスマスソングといえば色々ありますが、最近はこれです。

日本では人気曲との声も見かけましたが、私は最近までこの曲を知りませんでした。

クリス・レアの渋い声が特徴的で、ほん

のり温かい曲調と、クリスマス休暇に車で帰省する情景やわくわく感が表れた歌詞とがよくマッチした曲だと思います。

3 『白い恋人達』 (桑田圭祐/2001年)

同じくクリスマスでおなじみの一曲。私の親は、この曲のPVで桑田さんが白い息を吐きながらピアノを弾いているのが頭から離れないと言いますが、私は学生時代カラオケに行ったことを思い出します。

4 『光と君へのレクイエム』

(山下達郎/2013年)

映画『陽だまりの彼女』のために書き下ろしたエンディング曲ということで、映画でこの曲を知ることとなりました(映画の説明は、嵐とネコが大好きな事務局にいつかお任せします)。

出だしからのドラムのリズムが軽快で、疾走感がありますが、そこから山下さん特有の落ち着いたトーンの曲調が合わさって、鈍い光のような温かさを感じさせる、この映画の世界観をよく表した曲だと思います。

シングルCDを買うのは珍しいことですが、なかなか近場で探しても見つからず、東京に行った機会に渋谷のツタヤでやっと見つけて買ったのを覚えています。

5 『さよならバイスタンダー』

(YUKI/2017年)

NHKのアニメ『三月のライオン』の前代オープニング曲。もともとYUKIさんの曲は好きだったのですが、将棋アニメ『三月のライオン』とタイアップとなれば、これは注目せざるを得ません。

学生時代、囲碁が漫画『ヒカルの碁』で若いファンを取り込みましたが、将棋も『三月のライオン』人気にあやかりたいところです。恋愛ものでありながら、随所に将棋要素も取り入れているところがすごいです。音楽の話じゃないですね、すみません。

『100人いたら100通り』

～美術館めぐりの愉しみ～

子ども達が巣立って比較的時間の融通がきくようになってから、もともと好きだった美術展に足繁く出かけるようになった。数少ない夫との共通の趣味ということもあって、話題の美術展が来ると一緒に出掛けることも増えた。予定が合わない時や物凄い行列が予想される時などは一人で観に行く。

京都や大阪、神戸などには様々な展覧会が巡回してくるし、東京に行く機会があれば、ここぞとばかり美術館をはしごする。どの展覧会も一期一会で、何かしら面白いなとか好きだなと思う作品に出会えることが楽しい。

ここ数年で印象に残っているのは、カラヴァッジョ展での「メドゥーサ」や「ナルキッソス」、世界に先駆けて初公開された「法悦のマグダラのマリア」。主題にもかかわらず描写がとても人間臭くて表情豊か。マルモッタン・モネ美術館所蔵展でのモネ最晩年の作品、赤とオレンジ色の抽象画のような「バラの小道」や「バラの庭から見た家」。琳派展での俵屋宗達、尾形光琳、酒井抱一の風雷神神図屏風そろう踏みの圧巻。若冲の面白くて可愛らしい鶏図や布袋図、モザイク画のような樹花鳥獣図屏風。理解はできないけれど不思議なパワーを感じたヴェルフリ。ボストン美術館の至宝展でのアンセル・アダムスの写真などなど、挙げればきりが無い。

少し前になるが、テレビ朝日の『白の美術館』

という番組で、博物館工学者の西野嘉章氏がゲストとして出演しているのを見た。

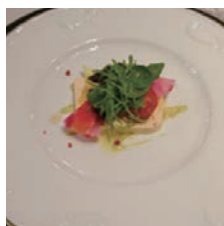
この番組は、様々なゲストが、真っ白な空間を使って自分の伝えたいことを表現するというもので、西野氏は丸の内にある博物館「インターメディアテク」の館長も務め、展示物をいかに魅力的に見せるかを考えるプロフェッショナル。ごみ箱に捨てられていた廃材などを組み合わせて、ブランクーシやエル・リシツキーなどの現代美術の作品に見立てて再現して見せていた。

その中で、「人から見たらただのゴミ(ガラクタ)だけど、それでもいい。人が良いと言うから良いと思わなくていい。100人いたら100通りの価値の尺度の中で生きている社会が面白いし豊かな社会だと思う。」と語っている。そして、そんな人生を楽しむ秘訣は「勉強すること、知識があるとすべてが面白く見える」と。

たくさんの絵画や作品に触れると、例えば描かれている聖書や神話の世界、作品の時代背景や技法など色々な方向に興味関心が広がって、学びたいことが自然に増えていく。

一つの価値観でなくていい。学びながら、無心に絵や作品と向き合っ、そこから何を感じ取るかは自由で開放された世界。今年もまた新たな出会いを求めて美術館に出かけよう。

(美)



ボジョレーの会

毎年、秋の事務所行事として、開催しているのが「ボジョレーの会」です。今年は、サンベルジュでフレンチを頂きながら、今年のボジョレーを味わいました。はじめに、皆で、ワインをいただきます。平田弁護士は「今年のボジョレーは、さらっとした、絞りたてのフレッシュさがあって、タンニンもブドウの皮を食べたときに感じるような若い渋みで、ボルドー感は控えめ」という感想でした。お料理は、サーモンとクリームチーズのテリーヌから始まります。クリームチーズの酸味とコクがワインともびったりでした。次にスープ、メインと続きます。お料理を食べるたびに、ワインを口に含むと、また一口お料理が食べたくなるような、とっても美味しいワインとお料理でした。

お店は、クリスマスの飾り付けがされていて、シックな大人の雰囲気漂う店内で、また是非行ってみたいと思うお店でした。

(満)



事務所員アンケート



事務所員全員にインタビューしました!!

★ わが家のルール(習慣)

★ 庭の掃除や庭木の手入れと家の掃除は概ね私。朝ご飯、自分の衣類の洗濯・片付けはそれぞれです。晩飯と、家の書類事務はかみさん。それで家は回ります。年末は、29日ころが大掃除。30日の朝、明石「魚の棚」で、よい蛸と海鼠を手に入れます。茹でたり、前処理するのが私の仕事。そして、大晦日は、私は断固ゆっくりします。

(平田)

★ 新年ということ言えば、毎年元旦はお風呂に入らないという習慣があります。他の家ではそういうことはない聞いたこともあるので、まちまちなのでしょう。調べてみると、年神様が来た福を洗い流さないようにするためとか、元旦くらいは火を起こさないようにして休むためにするためとか、色々あるようですが。

(吉谷)

★ ・喧嘩をしても、言いたいことを言ったら後は引きずらない。
・戸締りは3度確認。
・大晦日は、実家に集まりみんなでそろっておせち作り。作ったおせちは、それぞれ御重に詰めて持ち帰り。元旦は、それぞれの家で御重を囲み過ごします。二日は、そろって実家へ全員集合。明けましておめでとうございます。

(ひ)

★ 子ども達がいた頃は季節毎のイベント事など大切にしていたけれど、今は二人しかいないので、色んなことが自然発生的に決まっているような。強いて言えば、お正月は必ずおせち料理を作ること、お雑煮は牡蠣入りのお澄ましにすることかな。

(美)

★ (暗黙の了解?)

我が家には元気な雄猫が二匹います。当然にケンカは日常茶飯事で、時にはとっくみあいのケンカになることも。しかし、どんなに激しいケンカの最中でも、どちらかが、水を飲み始めた時は、攻撃は中断し、すぐ後ろでチョココンと待機しています。私たち家族は、それをウォーターブレイクと呼んでいます。猫たちの不思議なルールです。

(満)

★ 我が家には高校生の息子と中学生の娘がいます。特に息子は小学生の時から野球をしていたので、その習慣から始まったルールなのですが、子供達は学校の制服のカッターシャツや体操服、部活のユニフォームなどを帰って来たらすぐに自分で洗濯をして干すということになっています。

おかげで母はとても助かっています。

(川)

夏の一大イベント、事務所旅行

今年は『古都』奈良へ行ってきました。1日目は、台風に追われながら中々大変なものでしたが、それはそれで楽しませていただきました。お昼は、築250年の町家を改装したレストラン『五條源兵衛』。料理長が自ら選んだ地元野菜をふんだんに使ったお料理。料理には、きゅうりの蔓・荳胡麻・南瓜の花など【えーっ！＼(◎o◎)／こんなの食べれるの?】と疑問に思いながら食べてみるとそれはそれは美味しく頂きました。

お昼の後は、日本一の吊り橋である『谷瀬の吊り橋』を渡る予定でしたが雨が激しく、川も増水のため断念し、神社を参拝に行くも、こちらも閉まっていた入れず、仕方がないのでこの日はホテルでゆっくり過ごしました。

2日目は、昨日の天気うそのようなお天気でも暑かった。

まずは、金峯山寺、それから明日香村を散策。石舞台古墳、日本最古のお寺『飛鳥寺』。お昼は町家でお箸と信楽焼でいただく創作フレンチ。どれもこれも美味しかった(^^)。それから食後の運動に、奈良町を散策して帰路につくという食いしん坊万歳の旅でした。

(ひ)



～行ってきたよ こんなお店～

今回ご紹介させていただくお店は、姫路市本町にある世界一姫路城に近い洋食店、洋食グリル天平です。大手前公園のすぐ南にあって隠れ家的な感じですが、平日のランチタイムで12時過ぎに到着した時には、店内はもうすでにいっぱいでした。

売り切れ次第終了の大人の天平ランチ、まだありますか？とお聞きしたら、まだあります、とのこと。良かった！ということで注文しました。日替わりのメイン料理は店内の黒板に書いてありこの日は、ポークカツレツサラダ仕立て、とのこと。

まず最初に出てきたのが、前菜盛り合わせ。合鴨のスマークやパスタ、キッシュなど彩りよくどれも美味しかったです。次は7種類の野菜をコトコト煮込んだスープ。カップの底にはチーズが沈んでいて、これまた

とても美味。そしてメインのポークカツレツです。カツにソースがかかっている、その上にサラダが乗っています。お野菜と一緒にカツを頂くことが出来るので、さっぱり頂きました。お肉がとても柔らかかったです。また付け合わせのポテトサラダがとてもめらか。湯むきされたトマトもとても甘くて感動しました。最後はお好きなソフトドリンク。おすすめは、皮ごと丸絞り果汁(りんご・みかん)！氷も果汁で作られているようで、果物そのものの味です。氷が溶けるまで飲まないともったいない！どれもとても美味しく頂きました。

シェフの人柄がとても感じられる温かい雰囲気のお店でした。またお邪魔したいです。

(川)



編集後記

早いもので、この事務所だよりも16号となりました。事務所だよりの発送時は、所員皆が一つの部屋に集まり、楽しく雑談をしながら、時には音楽で気持ちを盛り上げながら、刷り上がった原稿を折り、封筒詰めをし、一日かけて発送しています。今回のアンケートテーマは、「我が家のルール」ということで、ご紹介しましたが、皆で行うこの発送作業も、いわば事務所のルールのようなもので、この先も途切れることなく続いていくことでしょう。

(溝)